日韓両言語の文の意味構造の比較対照

全　賢善

1.はじめに

日本語と韓国語の類似及び相違点については様々な議論があるが、文の意味構造に限っては両言語は極めて類似していると言うことができよう。このことは、話し手の聞き手に対する伝達態度の表し方が共通していることを示唆している。

日本語の意味構造を大きく「命題」と「モダリティ」に分けて考えてきた従来の日本語研究者は、日本語が「モダリティ」にかかわる表現形式に富んだ言語であることを明らかにし、それを基にして対照研究の有効性を唱えてきた。

本稿は、日本語の「モダリティ」、特に「ていねいさのモダリティ」と「伝達態度のモダリティ」を基準として、日本語と似て非なる韓国語の文の意味構造の新たな意味解釈を試みることを、その目的とする。

なお、「伝達態度のモダリティ」の表現形式については、本稿では取りあえず情報のありようによって使い分けのなされるものだけを取りあげて論を進めることにする。

2.日本語の文の意味構造における「モダリティ」

話し手の聞き手に対する丁寧さを表す「ていねいさのモダリティ」には、「ダ体」、「デス・マス体」、「デゴザイマス体」がある。これらは、周知のごとく話し手が聞き手に対して抱く敬意をその場その場で適合させて表すための文体である。一般的には「尊敬語」、「謙譲語」、「丁寧語」などと称せられ多様な文体が挙げられるが、本稿ではこれらの用語で呼ばれている三つの文体に限って考察する。

ところで、「デゴザイマス体」や「尊敬語」といわれるものが、いつも話し手の聞き手に対する尊敬の意を表すとは限らない場面が実際の言語行動ではいくら

でも起こり得る場合がある。

表現例1（作例）

甲：おい、朝刊、どこだ。

乙：いつものところでございます。

甲と乙は夫婦である。夫（甲）が朝起きて、妻（乙）に朝刊がどこにあるかを聞く場面である。昔は、妻の夫に対する話し方は常に丁寧でなければならなかったのかも知れないが、現在は、何気ない夫婦の間での表現例1のようなコミュニケーションはまず存在しないものと思われる。現在においては、乙の「デゴザイマス体」は、甲に対する尊敬の意よりは、むしろ甲を冷やかしている意が感じられさえする。

即ち、「ていねいさのモダリティ」の表現形式は、話し手と聞き手との社会的な対人関係をはじめ様々な社会言語学的な要素を勘案して用いなければならないということである。

一方、日本語の文末表現の中で、「ていねいさのモダリティ」と深く関わっているのが「伝達態度のモダリティ」である。「伝達態度のモダリティ」とは、「文を伝達する際の話し手の聞き手に対する態度を表すモダリティ」[1]のことであり、日本語の話しことばにおいては不可欠とも言える「終助詞」が「伝達態度のモダリティ」の代表的な表現形式である。「終助詞」の使い分けにも、実際の言語行動上、前述した「ていねいさのモダリティ」と同様に話し手と聞き手との社会的な対人関係などを基にして使い分けられている側面が強い[2]。

表現例2（作例）

甲：じゃ、君は自衛隊のような軍隊の必要性を認めるのか。

乙：a.軍隊とは言ってません。ただ、アジアの安全と平和のためには自衛隊が必要だと思っただけです。

b.軍隊とは言ってませんよ。ただ、アジアの安全と平和のためには自衛隊が必要だと思っただけですよ。

表現例2の甲と乙を先生対学生と想定してみよう。乙は甲との社会的な対人関

係を崩さないために、a、bの中から、「ここではこの表現が丁寧である」と暗黙裏に認められている表現形式としてaの方を選ぶはずである。ここで明らかなことは、bよりはaの方が丁寧さが高いということであり、終助詞を用いることによって丁寧さの欠けることが有り得るということである。言うまでもなく、終助詞を用いるか否かだけで丁寧さが決定されるわけではない。場合によっては、終助詞を用いることによって丁寧さの高まることもある。

表現例3（作例）

甲：金曜日のゼミは何時からだね。

乙：午前9時半からでしたね。

甲：あっ、そうだったっけ。さっぱり忘れてた。ありがとう。9時半だね。

甲と乙は先生と学生の関係である。表現例3において、甲は「金曜日にゼミがある」ということは知ってはいたのだが、その時間を忘れていて、それを学生に確認する場面である。この場合、乙は甲の情報要求に対して情報提供の際に用いられる「よ」を避け、寧ろ甲に情報を確かめるための手段、つまり「ね」（下降調）を選んで発話し、甲のfaceを傷つけないように努め、甲との社会的な対人関係を守ろうとしている。

ここでは、終助詞が具有している待遇性も考えられる。終助詞が丁寧さを低めるという見解もあるが、ここで、乙が甲の情報要求に対して「午前9時半からでした」と答えたとすれば、どことなくそっ気ない感じがし、口調によっては先生でありながら自分の担当する時間を忘れているのかと責めているようにも受け取られる。「ね」を用いるとそのようなことはなく、甲に対して礼を失しない。これが日本語の特徴の一つである。

つまり、終助詞も「ていねいさのモダリティ」とともに話し手の聞き手に対する敬意の表明に用いられるということになる。なお、表現例3において、乙の「午前9時半からでしたね」は「午前9時半からですね」と表現しても全く差し支えない。しかしながら、この場合「です型」よりも「でした型」の方がより甲のfaceを傷つけない度合いは高い。しかし、この問題は本稿の考察の対象ではないので別途考察することとする。

表現例3で見てきたように、終助詞によって、丁寧さの度合いが高められるの

であるが、 次の表現例4のように終助詞によって、丁寧さの度合いが低められることがある。話し手は、聞き手に同じ情報を伝える際にも常に聞き手との親しさの度合いをはかり、様々な終助詞の中からその場に一番適当であると見なした終助詞を選択する。

表現例4（作例）

甲：じゃ、自衛隊のような軍隊の必要性を認めるのか。

乙：a.軍隊とは言ってない。ただ、アジアの安全と平和のためには自衛隊が必要だと思っただけだ。

b.軍隊とは言ってないよ。ただ、アジアの安全と平和のためには自衛隊が必要だと思っただけだよ。

c.軍隊とは言ってないぜ。ただ、アジアの安全と平和のためには自衛隊が必要だと思っただけだぜ。

d.軍隊とは言ってないぞ。ただ、アジアの安全と平和のためには自衛隊が必要だと思っただけだぞ。

甲と乙の関係を親友の関係としてみよう。その場合、乙は終助詞ゼロのaよりは、甲との親しさの度合いに適合したb、c、dなどの終助詞を使った表現を使うであろう。

終助詞の使い分けは、話し手と聞き手との間柄が親しければ親しいほど多様化し、かつ複雑化する傾向が見られる。情報のありようによって、「ね」、「よ」と置換することができ、使い分けのなされる終助詞のグループには次のようなものが挙げられる。

かい、がな、さ、ぜ、ぞ、って、ってば、とも、の、のに、もの等

次に、「ていねいさのモダリティ」と「ね」や「よ」などの情報のありようの表現に用いられる「伝達態度のモダリティ」の表現形式が、韓国語の文末表現においてはどのような形式で、どのように実現されるのかを明らかにし、韓国語の文の意味構造の分析を試みる。

3.韓国語の文の意味構造

韓国語の文の意味構造での「モダリティ」、特に本稿の対象である「伝達態度のモダリティ」に関する研究が従来ほとんど行われてきていないのは、「伝達態度のモダリティ」の概念と関わりがある。

既に述べたように、「文を伝達する際の話し手の聞き手に対する態度を表すモダリティ」を「伝達態度のモダリティ」とした場合、韓国語におけるそれは主に「待遇法」として表現される。換言すれば、韓国語での「伝達態度のモダリティ」と「ていねいさのモダリティ」との意味上の区別は難しいということである。

韓国語の文の意味構造には、大きく三つの型が考えられる。その一つは、日本語の文の意味構造と類似している型である。もう一つは、日本語の文の意味構造と似ているが韓国語の終結接尾辞が有する特徴により「ていねいさのモダリティ」と「伝達態度のモダリティ」が同時に実現される型である。 さらにもう一つは、日本語の文の意味構造とは一致しない型である。

これら三つの型をそれぞれA型、B型、C型とし、命題とモダリティとの表現形式を示すと次のようになる。

A型.「命題」＋「ていねいさのモダリティ」
B型.「命題」＋「ていねいさ・伝達態度のモダリティ」
C型.「命題」＋「伝達態度のモダリティ」＋「ていねいさのモダリティ」

A型は従来「待遇法」として研究されてきており、 文の意味構造における待遇表現の個々の伝達態度的な意味よりはそれらが有する丁寧さの度合いに焦点が当てられてきた。

次節では、韓国語の「待遇法」の体系そのものが「伝達態度のモダリティ」でもあることを念頭に置きながら先行研究の成果を概観してみる。

3-1.待遇法の体系

韓国語の「待遇法」は大きく主体待遇、聴者待遇及び客体待遇に分けられる。

主体待遇：話し手の主体に対する尊待、非尊待に関わる待遇法
聴者待遇：話し手の聞き手に対する尊待、非尊待に関わる待遇法
客体待遇：話し手の客体人物に対する尊待、非尊待に関わる待遇法

「対人関係のモダリティ」[3]とも呼ばれる「ていねいさのモダリティ」と対応

する「聴者待遇」は次のようにグレード化される。

〔表1〕[4]

区　分	格式(+Formal)体	非格式(-Formal)体	区　分
高 め る	最 も 高める	ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞 ＋ {－요}	高 め る
	普通に高める		
高 低 同 じ	高め低めがない	ﾊﾟ ﾝ ﾏ ﾙ	高 め な い
低 め る	普通に低める		
	最 も 低める		

〔表1〕は、現代韓国語の「聴者待遇」の特徴を考慮して作られた表で、その特徴として三つの点が挙げられる。

(1)「格式体」と「非格式体」に分けられている

(2)「格式体」は五つにグレード化されている

(3)「非格式体」は二つにグレード化されている

この点については서정수(1989)も『존대법의 연구 －현행 대우법의 체계와 문제점－ 』で同様の指摘をしている。

「格式体」は公的な場面、上下関係が確実な場面、心理的距離を感じる相手[5]と接する場面で、「非格式体」は私的な場面、相手と対等な関係である場面、心理的に親しさを感じる相手と接する場面で用いられる。「格式体」と「非格式体」の区分は、1945年以後、韓国の身分制度の崩壊とともに話しことばとして定着した「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」及び 「ﾊﾟﾝﾏﾙ 終結接尾辞＋ {－요} 」を一つの独立したカテゴリーとして設定させる必要性から生じたものである。

「聴者待遇」は用言の語尾の変化によって、話し手の聞き手に対する待遇レベルが決められる。以下、韓国語が形態上、添加語的な特徴を濃厚に有する言語であることから、用言の活用語尾を終結接尾辞として捉え、論を進めることにする。

3-2.韓国語の終結接尾辞

한길(1991)は、終結接尾辞を話階[6]に依拠し新しく分類を試み、それらの形態的、統語的、意味的、語用的[7]な特徴を記述した。以下、それを表現別にまとめ

ておく。

〔表2〕[8]

	単純形態	複合形態
最も高める	‘－습니다’ ‘－습니까’ ‘－으십시오’ ‘－는답니다’等	
普通に高める	{－오} {－구려}	‘－는다오’ ‘－읍디다’ ‘－읍디까’ ‘－으리다’ ‘－으리까’ ‘－읍시다’
高め低めがない	{－다} {－으라}	‘－는담’ ‘－으랴’等
普通に低める	{－근세} {－음세} {－으이} {－네} {－는가} {－나} {－게} {－세}	‘－는다네’
最も低める	{－는다} {－느냐} {-니} {－자} {－아라} {－으려므나} {－으마} {-는구나} {－으니} {－을라}	‘－는단다’ ‘－느니라’ ‘－으렷다’
パソマル	{－아} {－지} {－게} {－네} {－는가} {－나} {－는군} {－데} {-거든} {－는데}	‘－다니’ ‘－냐니’ ‘－자니’ ‘-으라니’ ‘-는다나’ ‘－자나’ ‘－으라나’ ‘－는다고’ ‘－느냐고’ ‘－자고’ ‘－으라고’ ‘－는다니까’ ‘－느냐니까’ ‘－자니까’ ‘－으라니까’ ‘－는다면서’ ‘－을께’ ‘－을까’ ‘－을래’ ‘－는걸’ ‘－을걸’

次章は、これらの終結接尾辞が日本語の文末表現形式とどのように対応するかについて見ていくこととする。

4.日韓両言語の文の意味構造

日本語と韓国語の文の意味構造の対応関係を図式化してみると大略〔図1〕、〔図2〕のようになる。

〔図1〕韓国語の文の意味構造

韓国語の文の意味構造を大きく三つの型に分けた場合、A型とB型は表現形式の外面的な共通性を有する。そして、B型とC型は意味的な面で共通性を有する。

〔図2〕日本語の文体との対応関係

A/B型	A型≦B型	B/C型
デゴザイマス体	ダ体	デゴザイマス体＋終助詞
デス・マス体	ダ体＋終助詞	デス・マス体＋終助詞

文の意味構造において、A型は個々の終結接尾辞が持っている丁寧さの度合いだけを担っている型であり、B型は終結接尾辞が丁寧さの度合いだけではなく話し手の聞き手に対する伝達態度をも担っている型である。C型は、日本語の文の意味構造とは異なる型であり、本稿の主な研究対象とするものである。

日本語の文体と韓国語の終結接尾辞との対応関係は次の〔表3〕のように示すことができる。

〔表3〕でわかるように、韓国語の終結接尾辞はそれらが有する丁寧さの度合いだけではなく、日本語の終助詞が担っている命題に対する「伝達態度のモダリティ」の機能をも担っていることが窺える。以下、具体的な表現例をもとに見ていくこととする。

〔表3〕

A型	B型	C型
デゴザイマス体 ①用言の語幹＋「主体尊称接尾辞｛－시－｝」＋用言の語尾 ②‘－습니다’系列の終結接尾辞	デゴザイマス体＋終助詞 ①用言の語幹＋「主体尊称接尾辞｛－시－｝」＋用言の語尾 ②‘－습니다’系列の終結接尾辞 ③「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」	デゴザイマス体＋終助詞 ①「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」
デス・マス体 ①‘－습니다’系列の終結接尾辞	デス・マス体＋終助詞 ①‘－습니다’系列の終結接尾辞 ②「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」	デス・マス体＋終助詞 ①「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」
ダ体及びダ体＋終助詞 ①ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞 ②｛－다｝系列の終結接尾辞		

4-1.韓国語の文の意味構造　－　その1

ここでは、日本語の文の意味構造と一致する韓国語の文の意味構造を見ていくが、A型と〔表3〕で示したようにB型の一部もこの類として扱うのが妥当であるので、それもここで一括して考察していく。

表現例5（作例）

この頃お元気でございますか。

요즈음 어떻게 지내십니까？[9]

表現例6

こんなにいただいてはもったいのうございます。申しわけございません。

이렇게 많이 받으면 황송합니다[10]. 뵐 낯이 없습니다.

（『伊豆の踊子』川端康成）

表現例6は、宿屋の年輩の女の人が若い旦那から宿泊のお金を思ったよりたくさん貰ったことに対するお礼のことばである。この状況をそのまま韓国の宿屋と想定してみても上記の韓国語訳のようになる[11]。

表現例7は②'－습니다'系列の終結接尾辞と対応しているもう一つの例である。

表現例7

もったいのうございます。おそまついたしました。お顔をよくおぼえております。こんどお通りの時にお礼をいたします。...お忘れはいたしません。

황송합니다. 대접이 변변치 못했습니다. 얼굴을 잘 기억하고 있겠습니다. 요다음번에 지나실 때에 인사를 드리겠습니다. ...잊지 않겠습니다.

（『伊豆の踊子』）

以上の表現例に見られるように、これらの類の表現においては日韓両言語の文の意味構造は一致していることが窺える。

日本語：	命題	＋	ていねいさのモダリティ
	‖		‖
韓国語：	命題	＋	ていねいさのモダリティ

「デス・マス体」も'－습니다'系列の終結接尾辞と対応する。

表現例8

今夜はまだこれからどこかへまわるんですか。

오늘밤은 아직 지금부터 어딘가 돌데가 있습니까？

（『伊豆の踊子』）

表現例9

聞こえましたか。

들렸습니까?

（『伊豆の踊子』）

一方、「デゴザイマス体＋終助詞」及び「デス・マス体＋終助詞」の日本語の文を韓国語に訳した場合、両言語は必ずしも一対一の対応関係にはならない。

表現例10（作例）

この新製品はどんな敏感な肌にも何のトラブルもございませんよ。一回お試しくださいませ。

이 신제품은 어떤 민감한 피부에도 아무런 문제가 없습니다. 한 번 사용해 보십시오.

「デゴザイマス体」に「終助詞」が後続した場合にもA型と同様に韓国語の終結接尾辞は形態上変わりがない。しかし、'－습니다'系列の終結接尾辞は話し手の聞き手に対する尊敬の意の表明だけではなく、次のような意味的な特徴も有する。

'－습니다'：話し手が聞き手に情報や知識を尊敬する態度で知らせる[12]。

'－습니다'を代表的な表現形式とする「最も高める終結接尾辞」は、聞き手の存在を前提した場面で、聞き手が話し手より年上や目上の人である場合や、あらたまった場面で用いられる。

このように見てくると、韓国語の文の意味構造にもう一つ新しい枠組みを設定する必要性が生じてくる。これが本稿でB型とした一類の表現である。

B型.「命題」＋「ていねいさ・伝達態度のモダリティ」

しかし、このようなB型の表現は韓国語話者にしばしば誤解を招くことが多く、「デゴザイマス体」も、「デゴザイマス体＋終助詞」も'－습니다'系列の終結接尾辞と対応するので終助詞の適切な使い分けに乱れが生ずることとなる。従っ

て、本稿の主題から外れるが、終助詞の使い分けの教授にあたっては全(1994a)で指摘したように話し手と聞き手との社会的な対人関係及びその他の社会言語学的な要素を考慮した上でなされなければならず、「ていねいさのモダリティ」との相互関係をも充分に考慮しなければならない。

「デス・マス体＋終助詞」の場合も「デゴザイマス体＋終助詞」と同じである。この場合も一つ以上の型が考えられる。その一つは4-3で述べることにして、ここでは「最も高める終結接尾辞」が「ていねいさのモダリティ」の機能だけではなく「伝達態度のモダリティ」の機能をも担っている表現例を見ていく。

表現例11

お待ちしておりますよ。

기다리고 있겠습니다.

(『伊豆の踊子』)

前述のように、'－습니다'には終助詞「よ」の機能をも含まれており、表現例11の韓国語の訳からも「よ」の意味は十分に読み取れる。

以上から、日韓両言語は文の意味構造上極めて類似したものであることは間違いない。しかし、B型においては多少相違するところのあることも確かである。それは韓国語の終結接尾辞が担っている特徴の一つであり、韓国語の文の意味構造を大略三つの型に分けることとなった要因でもある。

4-2.韓国語の文の意味構造 － その2

ここでは「ダ体」及び「ダ体＋終助詞」における日韓両言語が意味構造の上でほとんど対応関係にあるが、必ずしも対応関係にないものもある表現例を見ていく。

表現例12(作例)

アッ、田中が来る。

앗, 다나카가 온다.

表現例12で用いられた韓国語の「最も低める終結接尾辞」は話し手が聞き手よ

り年上や目上であるか、または話し手と聞き手との間柄が極めて近いかのいずれかの場合に用いられる終結接尾辞である。それは「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」と類似しているが、「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」が非格式体であり、それらを丁寧な表現にするときには「聴者尊待助詞」{－요}を付ければ良いのに対して、「最も低める終結接尾辞」は格式体として用いられることや{－요}と結合できない点で、「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」と区別される。{－는다}は聞き手の存在を前提した場面で、「話し手が聞き手に命題を最も低めた態度で知らせる」という意味的特徴を有する。

「ダ体＋終助詞」の場合も基本的に同様である。

表現例13（作例）

アッ、田中が来るよ。

앗, 다나카가 온다.

しかし、「ダ体＋終助詞」の場合は韓国語の「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」と自然に対応する。

表現例14（作例）

アッ、田中が来るよ。

앗, 다나카가 와.

ところで、韓国語話者にとって最も難しい問題は、数多くある終助詞の使い分けである。

表現例15（作例）

甲：水曜日の勉強会は何時？

수요일의 공부는 몇 시야?

乙：a.10時からだよ。

b.10時からだぜ。

c.10時からだぞ。

10시부터야.

表現例15の乙のa～cの表現は、韓国語では「10부터야」だけに対応させる傾向が見られる。平叙文における「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」{－아}の有する意味的な特徴は、「話し手が聞き手に命題を親しみを込めた態度で伝える」ということであり、「よ」、「ぜ」、「ぞ」が親しい間柄で用いられる終助詞であることと一脈通じるところがあるからである。

「よ」、「ぜ」、「ぞ」の終助詞の共通点は話し手が聞き手に何らかの情報を知らせたり軽い主張をするところにある。しかし、機能上は共通し、類似はしているものの、それらの使い分けは日本語の特徴の一つであり、そうした使い分けの基準の一つとして、話し手と聞き手との社会的な対人関係が挙げられる。

ところで、韓国語の「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」{－아}は話し手と聞き手が対等である場合か心理的に親しさを感じる場合には幅広く用いることができる。平叙文における「よ」、「ぜ」、「ぞ」が担うニュアンスを{－아}でカバーできるということは、{－아}に多様なレベルの丁寧さが絡んでいると解釈され、韓国語の「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」が担っている曖昧な丁寧さの度合いからはおよそ想像すらできるものではない。

{－아}と極めて類似している「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」として{－지}がある。平叙文における{－아}と{－지}の相違は、単純な伝達であるか、話し手の聞き手に対する親しみを込めた伝達であるかにある。

{－아}、{－지}は「ね」とも対応する。

表現例16（作例）

甲：a.朝ご飯はもう食べたね？

아침밥은 벌써 먹었어？（먹었지？）

b.朝ご飯はもう食べたか。

아침밥은 벌써 먹었어？

c.朝ご飯はもう食べたかい。

아침밥은 벌써 먹었나？

乙：うん。

응.

aは甲が乙に確認を求めるために終助詞「ね」を用いた発話である。場合によ

っては、b、cの「か」、「かい」も用いられる。これらと対応する韓国語の終結接尾辞は疑問文における｛－아｝と｛－지｝が挙げられる。疑問文での｛－아｝と｛－지｝には、「話し手が聞き手に命題を親しみを込めた態度で質問するか、確認する」という意味的特徴がある。そして、｛－아｝、｛－지｝とは丁寧さの度合いが異なる「普通に低める終結接尾辞」｛－나｝も挙げられる。これは、終助詞「かい」が年輩の人の表現形式であることと相通ずる。

このように、日韓両言語は文の意味構造において共通しているところが少なくない。しかし、次節の4-3で述べるように決して共通しているとは言えない文の意味構造の存在していることも確かである。

4-3.韓国語の文の意味構造 － その3

表現例17（作例）

何処かお出かけでございますか。

어디 나가세요？

表現例17の「요体」は、「습니다体」とほぼ同程度に、話し手の聞き手に対する敬意の意を十分に伝えている。それは、聴者尊待助詞｛－요｝の前の主体尊称接尾辞｛－시－｝によるものと解釈することもできるが、現代の韓国においては女性ばかりではなく男性までも聞き手に対する敬意の表明として「습니다体」とともに「요体」を一般に使用しているところから、「요体」にも「最も高める終結接尾辞」‘－습니다’が担っている丁寧さがある程度含まれていると見なしても差し支えなかろう。

実際の言語行動では、格式体と非格式体が共存して用いられている。各々の終結接尾辞の呼応関係は次のとおりである。

a.「最も高める終結接尾辞」と「最も高める終結接尾辞」か「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」

b.「普通に高める終結接尾辞」と「最も高める終結接尾辞」や「普通に高める終結接尾辞」、または「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」

c.「普通に低める終結接尾辞」と「普通に低める終結接尾辞」か「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」

d.「最も低める終結接尾辞」と「最も低める終結接尾辞」か「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」

「デゴザイマス体」、「デゴザイマス体＋終助詞」、「デス・マス体」、「デス・マス体＋終助詞」が、ある時には「最も高める終結接尾辞」と対応したりある時には「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」と対応したりするのは、韓国語の終結接尾辞に格式体と非格式体との区分はあるものの、それらが互いに丁寧さの度合いに大きな差がない限りは共存し得ることに起因する。

韓国語のC型の文の意味構造は、非格式体の「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」に限られる。ここでは、「ていねいさのモダリティ＋（情報のありようの表現に用いられる）終助詞」と「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」との対応関係を見てみることとする。

ここでの考察は、全(1994b)と重なるところもあるが、本稿は、あくまでも日本語の文の意味構造を基にし、それと異なる韓国語の文の意味構造の特徴を明らかにすることにその目的がある。

日韓両言語の文の意味構造の異なる表現は次のように示すことができる。

日本語：［命題］＋［ていねいさのﾓﾀﾞﾘﾃｨ］＋［伝達態度のﾓﾀﾞﾘﾃｨ］

‖

韓国語：［命題］＋［伝達態度のﾓﾀﾞﾘﾃｨ］＋［ていねいさのﾓﾀﾞﾘﾃｨ］

表現例15、16を丁寧な表現形式に変えてみると、韓国語との対応関係は次のようになる。

表現例18（作例）

甲：水曜日の勉強会は何時？

수요일의 공부는 몇 시야？

乙：a.10時からですよ。

10시부터예요.

b.10時からですぜ。

c.10時からですぞ。

乙のb、cは日本語としては使い方に制約があるが、これらに対応する韓国語の表現は見当たらない。aは「10시부터입니다」とも表現でき、「10시부터입니다」と表現した場合はB型に属すので、ここでは考察の対象から省く。

表現例19（作例）

甲：a.朝ご飯はもう食べましたね？

아침밥은 벌써 먹었어요？（먹었지요？）

b.朝ご飯はもう食べましたか。

아침밥은 벌써 먹었어요？

乙：ええ。

예.

さらに、bには次のような対応関係も考えられる。

表現例20（作例）

b.朝ご飯はもう食べましたか。

아침 진지는 벌써 드셨어요？

これは「진지」とともに「드시다」という尊敬語を使った表現が「요体」で実現された例である[13]。

このような例は『日韓対訳文庫』からも容易に見つけることができる。

表現例21

それじゃ冬休みにはみなで船までむかえに行きますよ。

그렇다면 겨울방학에는 우리 모두가 배에까지 마중 나가겠어요.

（『伊豆の踊子』）

表現例22

...勝手に決めちゃう人がいますね。

...멋대로 결정해버리는 사람이 있어요.

（『待っている男』阿刀田高）

表現例23

たしかあなたのお使いになる精霊、ジンという名まえでしたね。

아마 당신이 부리고 계신 정령은 진이라는 이름이었지요?

(『魔術』芥川龍之介)

表現例24

こんなことはほんの子どもだましですよ。

이런 건 그저 애들 속임수지요.

(『魔術』)

表現例25

おかわりもありますよ。

밥도 더 있어요.

(『おかあさんのてのひら』芥川龍之介)

5.おわりに

本稿は、韓国語の文の意味構造が日本語の文の意味構造と共通するところが多いことは確かであるが、異なるところのあることを明らかにすることがその目的であった。そこで、韓国語の文の意味構造を次のA型、B型、C型のように三つの型に分けた。

A型.「命題」+「ていねいさのモダリティ」

B型.「命題」+「ていねいさ・伝達態度のモダリティ」

C型.「命題」+「伝達態度のモダリティ」+「ていねいさのモダリティ」

本稿において、従来一般に行われてきたように、韓国語の文末表現に関する研究は形態論や統語論の上から論じることだけでは不十分であることを、日韓両言語の文の意味構造の比較を通して指摘した。この問題は、社会言語学、語用論、談話分析及び認知意味論などをも含む幅広い分野からも考察を進めなければならないが、それは今後の課題とする。

註

(1)　益岡陸志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版、p.48。

(2)　全賢善(1994a)「終助詞『ね』と『よ』の使用域の分析に関する基礎的研究－待遇表現としての『ね』と『よ』のあらわれについて－」名古屋大学大学院文学研究科日本言語文化専攻修士論文、p.55、p.74。

(3)　中右実(1994)『認知意味論の原理』大修館書店、p.63。

(4)　한길(1991)『국어 종결어미 연구』강원대학교출판부、p.40。

(5)　「心理的距離を感じる相手」とは、話し手があらたまった態度を取るべき相手のことを意味する。

(6)　「話階」というのは、「丁寧さの度合い」を意味する用語である。

(7)　한길は「語用」という用語のかわりに「話用」という用語を使用しているが、本稿は便宜上日本語学で用いられている用語を借用する。

(8)　〔表2〕では、「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞＋｛－요｝」が欠けているが、それは「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」に助詞｛－요｝が接続された形で、｛－요｝以外は「ﾊﾟﾝﾏﾙ終結接尾辞」と一致するからである。

　助詞｛－요｝については研究者によって未だ用語が統一されていないが、それが話し手の聞き手に対する敬意を表す際用いられることを勘案し、「聴者尊待助詞」と呼ぶことにする（成耆徹(1990)、한길(1991)）。

　｛ ｝は単純形態素、‘ ’は複合形態素を表す記号である。

(9)　‘－습니다’は、それに先行音節の種類により‘－ㅂ니다’であらわれる場合がある。つまり、用言の語幹が子音で終わった場合は‘－습니다’が、用言の語幹が母音で終わった場合は‘－ㅂ니다’が用いられる。

　表現例5は、「지내（自動詞지내다の語幹）＋시（主体尊称接尾辞）＋ㅂ니까（最も高める終結接尾辞の疑問形）」、という構造である。

(10)　「황송（惶悚）」の意味は「惶恐」である。

(11)　実際の言語行動における表現方法はさらに多様かつ複雑であるが、本稿では代表的な表現形式だけをその対象とした。

(12)　「知らせる」は、話し手の聞き手への伝達態度の一つである。本稿では、「知らせる」を「情報の提供」の意味とした。

(13)　「진지」は「お食事」、「드시다」は「召し上がる」をそれぞれ意味する。

参 考 文 献

国立国語研究所　1991　『現代語の助詞・助動詞－用法と実例－』　秀英出版

中右　実　1994　『認知意味論の原理』　大修館書店

益岡陸志　1991　『モダリティの文法』　くろしお出版

김영진　1993　『日本語 조사조동사 活用辞典』　進明出版社

다락원出版部訳註　1992　『日韓対訳文庫』

서정수　1989　『존대법의 연구－현행대우법의 체계와 문제점－』

成耆徹　1990　『現代国語 待遇法 研究』　開文社

全賢善　1994a　「終助詞『ね』と『よ』の使用域の分析に関する基礎的研究－待遇表現としての『ね』と『よ』のあらわれについて－」名古屋大学大学院文学研究科日本言語文化専攻修士論文

――　1994b　「韓国語文末表現の構造分析－日本語の終助詞『ね』、『よ』と対応させて－」『ことばの科学』　第7号　名古屋大学言語文化部 言語文化研究委員会

한 길　1991　『국어 종결어미 연구』강원대학교출판부

（チョン　ヒョン　ソン：日本言語文化）